

原発批判派による地層処分研究施設見学前後の考え方の変化

Visit of the underground research center by Nuclear critics and their opinion changes.

*三谷 信次¹、半谷 輝己²,

¹原子力コミュニケーションズ, ²リスクコミュニケーションジャパン

原発に対し比較的批判的な一般人を Facebook で募集し、瑞浪の超深地層処分研究施設を見学した。地層処分についての彼らの考え方の変化について動画に収録し Youtube に掲載し発信した。その内容について報告する。

キーワード：原発批判派、地層処分、リスクコミュニケーション、合意形成、Youtube

1. 緒言

NUMO一原子力文化財団の募集した地層処分研究施設見学について、団体や組織の人ではなく Facebook を通して関心の高い人達を募集した。原子力に比較的批判的な人達が多い一般人が集まってきた。地層処分に関する技術的な課題は、概ね理解して頂いたが制度的な問題で予想外の提案をしてきた。

2. 方法

「持続可能な社会の構築のためにエネルギー問題の解決は必須の課題である。エネルギーの消費者たる我々一人ひとりが、正しい情報をもとにこのことに適切に対処することが求められている。原子力発電により発生し、すでに蓄積されている高レベル放射性廃棄物の処分の問題は、将来に向けて避けて通れない世代を越えての重要な課題のひとつである。このことを理解し議論するために、瑞浪深地層処分研究施設を見学し、今後の対応を考えないか」という形で一般人に Facebook で呼び掛けた。

多くの人達が応募してきたが、予算の関係で 15 名が参加した。参加者は、原子力とは全く無縁の主婦、会社員、元大学教授、元及び現役の技術者、医療関係者、フリーライター、自由業者たちであった。彼らの多くは原子力エネルギーの利用には必ずしも積極的な人は少なく、最初は地層処分についても漠然と不安を抱いていて、総論としての課題解決への関心は高いが、地層処分に関連する技術的な情報不足のため確たる意見を持ってないでいた人達が多かった。彼らの原子力や地層処分に関する情報源は、募った関係で当然 SNS からが多いが、新聞、テレビ等のマスメディアも参考にしており、それも批判的にみている人達が多かった。事前学習会と見学会前後の討論で、漠然と反対していた人達が条件付き賛成に回った人が多くみられた。その内容を動画に収め Youtube^[1]に掲載した。昨年末から今年半ばまでのアクセス数は 700 余であった。I

3. 結論

参加者の多くの意見は次の通りである。「原発の再稼働と現在貯まっている使用済核燃料の地層処分とは区別して考えるべき。すでに貯まっている核燃料は、現世代の責任でもって地層処分すべし。特に地産地消も考えに入れるべし。今後再稼働で出てくるものは、再稼働プラントのサイトで処分することを考えるべし。そうすることで、電力の生産地と消費地の住民が、互いに自分たちのこととして捉えざるをえず、地層処分に対する国民の意識が高まることになる。そのような制度に改めるべきである」

[1] 動画、ミッドナイトラボ <https://www.youtube.com/watch?t=&v=4ZTtqWmHukQ&app=desktop>

*Shinji Mitani¹, Terumi Hangai²

¹Nuclear Communications., ²Risk Communication. Japan